令和５年度 第２回 国産材の安定供給体制の構築に向けた
四国地区需給情報連絡協議会　議事録

1.日　時：令和6年1月 23 日(火)13:30～15:30
2.場　所：Web 会議(Zoom)
3.出席者：別紙のとおり
4.議事次第及び配布資料：別紙のとおり
5.概　要

（1）冒頭挨拶

○本山　会長（高知県素材生産業協同組合連合会　代表理事）

年頭から、大きな災害、事故が発生し、驚きと共に心の痛む思いをしているところです。災害に遭われた地域に方々には、お見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになられました方々に心から哀悼の意を表したいと思います。

四国における木材市況は、地域によっては、ヒノキ製品の依頼が強く、順調に取り引きされており、これに伴い、原木も引き合いがよい状態となっていますが、一方では、木材住宅の着工戸数が減少してきている状況もあり、なかなか先行きが見通せないのが状況といったところです。

しかし、国産材需給率は、毎年増加してきている状況もあり、輸入材への依存から国産材への切替えをさらに進め、海外市場の影響も受けにくくするような取組が重要となっております。

こうした中で、国産材の安定した供給体制を図ることが重要視されており、川上から川下までの幅広い連携強化と、情報共有の一元化が重要と思っております。

今会議では、四国地域における川上から川下までの情報共有を図ることを目的として開催しているところであり、各分野の構成員の皆様には、それぞれの立場からの現状実態、今後の見通しなどにつきまして、忌憚のない御意見をいただき、今後の動向などに注視していきたいと考えておりますので、本日はよろしくお願いをいたします。

（２）議事

○国立大学法人　高知大学　川田　名誉教授（以下、座長）

本日の座長を務めさせていただきます高知大学名誉教授の川田です。

それでは、議事に入りたいと思いますが、前回の会議は、令和5年6月に開催され、住宅需要の落ち込み等の影響から、プレカット稼働率や製品の販売量が低位であり、製品価格にも影響を及ぼしている一方で、エネルギー等の生産コストが上昇するという状況の中で、対応に苦慮しているといった報告がありました。

一方で、スギや柱材へのニーズが継続しているといった報告もありました。引き続き、国産材活用の機運の高まりを、どう生かしていくのか。需給に関する情報共有や関係者間での意見交換を進めていくことが、非常に重要であろうかと感じたところです。

本日は、まず、議事1として、林野庁から需給動向や予算措置に加え、建築基準法等の改正等についての資料説明をいただきます。その後、直近の需給動向等について、皆様方から情報共有や意見交換をいただきたいと考えております。

それでは、林野庁から資料の説明をお願いいたします。

○林野庁　木材産業課　永島　課長補佐

資料1～4、参考資料について説明。

○林野庁　木材産業課　松田　係長

資料5について説明。

○林野庁　木材利用課　斎藤　課長補佐

資料6について説明。

○林野庁　木材利用課　日比野　課長補佐

資料 7 について説明。

○川田　座長

資料5から資料7の改正建築基準法の施行についてと、改正クリーンウッド法の施行に向けて、木質バイオマスのライフサイクル GHG について、質問はありませんか。

ないようですので次に進めさせていただきます。

先ほどの林野の報告では、最近の木材市況において①製品輸入につきましては、2023年を通じて、低位な状況が継続し、需要のバランスとの関係もあり、東京在庫等では減少から、直近では底を打ったようにも見える。国内では②新築着工戸数の前年同期比減が続いており、③木材価格は、原木については下落傾向から上昇した地域も見られている。④製品については、底値を打ち、直近では、上昇の局面も見られている、等の報告がありました。また、エネルギー等の生産コストが上昇する状況で、対応に苦慮していると報告がありました。

それではこれから皆さん方からのご意見をいただきながら議事を進めてまいりたいと思います。

まず、川下の建築業者から指名させていただきます。住宅建築の今後の見通しや、木質材における需要の変化、あるいは、国産材活用拡大等についてお願いします。

まず、全建総連四国地協の執行委員長の大地様から報告をお願いいたします。

○全国建設労働組合総連合四国地方協議会（全徳島県建設労働組合 大地　執行委員長）

私たちの組合では、事業の種類、現場で働く職人が多く、徳島県内での木造住宅の現場に従事しております。

木材の価格については、少し落ち着きが見られるのではないかと思う。ウッドショック以前に比べると、若干下がっているのではないか。また、入荷については、余裕を持って、大工からの注文が来ればすぐに注文し、早めに工務店等が注文をするので、今はそれほど影響を受けなくなり、入手も困難ではない状況となっている。しかし、価格が以前より上がっており、新築の着工戸数が少し低迷し伸び悩んでいる状況です。

○川田　座長

状況としては、コロナ以前に戻ってきていると思います。前回、6月に発言いただいた中で、建築材料が高騰して、工務店に早く注文しなければ、手に入らない材料が出始めている状況だと言われていたと思いますが、現在では、その原料調達については、ある程度安定してきていると理解で

よろしいですか。

○全国建設労働組合総連合四国地方協議会（全徳島県建設労働組合 大地　執行委員長）
今のところは、大丈夫です。

○川田　座長
住宅建築そのもの、特に都市部の住宅建築と、地方の住宅建築との建築状況につきましては、多少差がありますか。それとも、全国同様傾向で展開しているという認識ですか。

○全国建設労働組合総連合四国地方協議会（全徳島県建設労働組合 大地　執行委員長）
都会のことは、分からないですが、地方では、若干低迷しているが動いています。

○川田　座長
統計上、確かに四国も建築着工量は低迷してきています。
続きまして、川下状況につきまして、一般社団法人の香川県の木材協会会長の樋口様から、最近の状況等について、四国、あるいは四国に限らず、一般的な川下の流れ、動きについてお尋ねしたい。

○一般社団法人香川県木材協会　樋口　会長理事
香川県における現状は、建築着工が、少し低迷しています。
現在、各市場においても、在庫が少々豊富になっています。特に、昨年度の状況と比べると、外材の価格が市場で上昇していたので、今、ようやく国産材に変化するような状況です。国産材も売れるかといったら、そうでもないですが、必要に応じて、現在在庫が十分にあるという状況になっている。
香川県としては、住宅着工を早く多くしてほしいと思うが、なかなか厳しい状況です。
その中において、現在特に、外材の色物は、非常に価格が上昇し過ぎており、その代替として、ヒノキの色物が追随して、よく売れるようになっています。このようなことから、スギやヒノキの役物、色物が、これから非常によくなっていくのではないかと思います。もう少し住宅の需要拡大を早くしてほしいと思います。

○川田　座長
外材価格が、高騰してきている中で、代替ではないですが、国産材、ヒノキ、特に役物の上昇で需給が非常に高まってきているということでした。
外材価格の高騰によって、国産材のヒノキ等の需要が伸びてきていると理解してよろしいですか。建築着工そのものの問題よりも、外材が原因ですか。また、今後の見通しについては、どうでしょうか。

○一般社団法人香川県木材協会　樋口　会長理事
外材は、為替によって値上がりしており、そのため国産材に移行しようとしています。
今後の見通しは、住宅着工の動向によりますが、現在、国産材の原木の価格は下落していな

い。

製品の価格は、かなり落ち着いているので、先行きはあまりいい見通しではないが、現状維持が精一杯ではないかと思っています。

○川田　座長

参加者の方で何か意見等がありましたら、発言、質問等いただければと思います。

○林野庁　木材産業課　永島　課長補佐

全建総連にお聞きしたいですが、注文の仕方が少しウッドショック前から意識が変わったという話は、すごく大きいことだと思いました。具体的には、その辺の流通については、工務店から材木屋に発注するスピードが少し早めになったのか。また、材木屋からそのもう少し上の流通の方に、発注するスピードが早くなったのか等具体的に教えていただきたい。

今まではおそらく即日納材だったと想像するが、ゆとりというのは、例えば何日ぐらい、または間隔的にはゆとりをもって発注するようになったのか等参考にお聞きしたい。

また、非住宅の状況についても教えていただけませんか。

○全国建設労働組合総連合四国地方協議会（全徳島県建設労働組合 大地　執行委員長）

注文するのが、ウッドショック時に、注文して納入までに時間がかかったので、早めに注文するのが定着し、材料は間に合います。 非住宅については分かりません。

○川田　座長

いずれにしても、住宅建築をめぐっては、コロナショックを契機として、建築資材一般の上昇によって、建築費が高くなってくる。建築着工戸数、着工面積も縮小、戸建ての面積も小さくなっている。このような住宅着工動向の中で、木材の製材需要等も少なからず制約されているのではないかと思います。

それでは、続きまして、川中のほうの方々を指名させていただきます。

原木確保や製品の生産状況、さらに、需要の変化等の状況、今後の生産体制等に対する考え方等について、国産材の製材等の皆さん方の中で意見をいただければと思います。

まず、ヒノキ専門工場の八幡浜官材協同組合代表の松代様から、最近のヒノキの製品の需給・生産状況等についてお尋ねしたいと思います。

○八幡浜官材協同組合　松代　代表理事

現在の状況としては、ほぼ通常どおりになっている。10月頃は、中国木材さんの影響で、受注はとても増加したが、現在は落ち着き通常となっている。アンケートのとおり、12月は去年と比較すると、原木在庫はかなり減少しており、若干、不足感がある。製品の価格は去年の平均単価と比較すると、1万円ほど減少していたため下落としている。

今後の見通しとしては、着工数が増加するという要素が、あまり見当たらないため、1棟当たりの国産材の割合を増加させる取組をしていかなければならないと思っている。

○川田　座長

中国木材さんの鹿島工場の火災で、一時的な需要があったということですが、ほぼ落ち着いてきている状況と思います。今後、着工量の中に、1棟当たりの国産材を増やしていくことにより、需要を維持していくともおっしゃっていますが、これは、具体的な対応はどういうようなことを考えていらっしゃいますか。

○八幡浜官材協同組合　松代　代表理事

角材、横架材関係の需要が増えていければと考えています。

○川田　座長

今の取引上にそういう傾向があるのですか。

○八幡浜官材協同組合　松代　代表理事

今のところは、あまりない。ヒノキ材はそこまでですが、スギ材は若干あると話は聞いています。

○川田　座長

先ほど、樋口委員から、特に外材が高騰したため、国産材ヒノキの役物で対応しているとのことでした。こういったものの需要があると八幡浜官材さんの製品出荷状況では感じますか。

○八幡浜官材協同組合　松代　代表理事

正直言うと、あまり感じていません。役物関係、多少出荷していますが、やはり、海外向けの役物の羽柄材等の注文をいただいている。国内では、そこまで高値でという値段は現在ではないと思う。柱材に関しても、役物は、ほとんど注文はないです。

○川田　座長

続いて高知おおとよ製材株式会社の遠藤様よりお願いします。

○高知おおとよ製材株式会社　遠藤　工場長

今年に関しては、中国木材さんに始まり、中国木材さんに終わった年と思います。まず、3月のスギの集成材の値下げ、これによりスギの柱角の販売が厳しい状況が現在まで続いています。また、ヒノキはずっと堅調でしたが、原木の出材量が少なく、現時点でも、昨年比の半分ぐらいの原木在庫しか持っていません。

ただし、着工量が悪いので、それぐらいの在庫量でも12月に注文はキャッチアップして、1月の販売量は、1割から2割減で落ち着きそうです。

特に、建売住宅が少ない様子なので、1月から3月までの販売は、かなり厳しくなるのではないかと予想しています。原木の価格が下落していないのが、不思議であるというのが実情です。中国木材さんの影響は、1か月ほど瞬間的にはありましたが、すぐに収束しています。

○川田　座長

高知おおとよ製材さんの場合は、製品を銘建工業に出荷という形で対応されていると思います。その製材品自体は、ラミナ材もたくさん生産されているのですか。

○高知おおとよ製材株式会社　遠藤　工場長

今年は、大阪万博関係で販売できなかったものがラミナ材に替わりました。

○川田　座長

銘建工業の話をお聞きしますが、大阪・関西万博関係で、CLT等の需要は、大手の業者は需要を確保されているのですか。

○高知おおとよ製材株式会社　遠藤　工場長

大阪万博のリングは、スナダヤさんと銘建でほぼ取り合った形になっていますので、比較的堅調な動きとなっています。

非住宅部門は忙しくてたまらない。銘建の集成材部門は、少し暇になっていたというのが実情です。

○川田　座長

今の話ですと、原木不足で少ないなりに、これから先もそれほど需給がひっ迫する状況ではないという見通しかと思います。

次に、スギ製材専門のウッドファースト株式会社の伊藤様よりスギの製材品状況をお願いしたいと思います。

○ウッドファースト株式会社　伊藤　代表取締役

製材の業界としては、中国木材の話題は、もう皆さん言われるとおりです。昨年の10月以降は、ベイマツに替わりスギ材のケタ、ハリ材の動きがありました。品薄なヒノキの土台とそのスギ材の梁関係の動きで、11月、12月まで、昨年の後半は動いたと思います。ただ、価格上昇というところまでは、なかなかいかずに、量がさばけたといったところです。

ただ、年初からいろいろと災害とかあり、私どもの市場関係も、少し止まった感じがあります。

現在、値動きが悪い状況で1月から3月にかけて、この状況が続くのかと不安を感じています。

良い情報としては、非常に港在庫が片付いたということ。ホワイトウッドの新規の入港も非常に遅れており、柱、間柱関係が非常に品薄になっていくということから杉材の動きがまたあるのかなと思っています。しかし、そういった動きもまたホワイトウッドの入港次第といったところ、どうしても外材に左右される国産材だといった状況に変わりないなとそれを見極めながら生産していくしかないと思っています。

○川田　座長

スギの場合、前回おおとよ製材様から、国産材のスギの集成材と、スギの無垢材との競合によって、むしろ、スギの需要が制約されるという意見もありました。聞くところでは、業者の中にはこれから

のスギは、集成材の時代ではないか、との意見も耳にします。これから建築基準法の改正等いろんな問題、利用を巡っての制約等が出てくると思いますが、その辺どういう見通しでしょうか。現在、ウッドファーストさんは、集成材を工場でつくられていますか。

○ウッドファースト株式会社　伊藤　代表取締役

つくっているものは、無垢の乾燥材です。

スギの集成材は、今後増えていくと感じていますが、現状、地域性はまだまだあります。特に、4寸角等は、まだ無垢が使われているところもあり、急な展開になるかどうか分かりませんが、少し注文等々は入ってきているので、それの対応はしていきたいと思っています。

私共の工場では、スギの集成材をつくっていくというところまではいっていない。

○川田　座長

製材生産は、地場需要はもちろんのこと、四国業界にとっては、中央市場の動向に大きく左右されると考えられますが、出荷サイドからも、製品需要及び流通体制の構築が求められるのではないかと思っています。製品の市場開発と同時に供給体制の在り方を検討する必要も重要なことです。川下対策としてどうあるべきなのか、一般社団法人の高知県木材協会の松岡コーディネーター様より、高知県木材協会の取り組みあるいは事例、一般論としてのあるべき姿、そういうものについて、意見いただければと思います。

○一般社団法人高知県木材協会　松岡　コーディネーター

木材協会では、約4年前から、県内の木材の供給のサプライチェーン構築に取り組み、県内の木材関係業者の川上から川中、川下のサプライチェーンを既存のサプライチェーンから、新しいサプライチェーンをつくるべく、いろいろと取り組んでいるところです。

その中で、特に、住宅着工は、これから徐々に減少する中で、中長期的には、非住宅関係、特に公共からということで、どのように供給体制、サプライチェーンを構築していけばいいのか行っている途上です。いろいろな公共の物件は、徐々に学校関係やあるいは保育　役所関係が出ておりますが、既存の流通から、また新しい長尺材等、いろいろなものを供給していくサプライチェーンにより、コーディネーター役をやりながら、繋げていくことを地道にやっていくことが大事なので、やっているところです。

○川田　座長

こういう非住宅分野へ需要開発していこうという取組で、サプライチェーンシステムの構築をしていくわけですが、これは、県内をベースとして取り組んでいくということ、あるいは都市部、中央市場である東京、大阪、名古屋等の首都圏にも、そういう供給体制を作り上げていこうということなのでしょうか。もし、中央であるならば、どういうような具体的取組がなされているのでしょうか。

○一般社団法人高知県木材協会　松岡　コーディネーター

今までのところは、県内におけるサプライチェーンを中心に、併せてやはり需要そのものは、外商といいますか、県外を考えていかないといけないので、その中のひとつとして、非住宅を考えた高知

モデルという工法で、いろいろな展示会等でPRをしておりますが、まだこれからというところです。

○川田　座長

いずれにしても、そういう非住宅へとシフトしていかざるを得ないという状況にあろうかと思いますし、その場合、高知県内はもちろん、行政等々と連携しながら取り組んでいけるということですが、何としても、中央市場や県外主要市場との連携が市場拡大にとって、重要かと思います。

製材等、流通の問題、製品流通等の関わりにつきまして委員の皆様方、意見、発言がありましたらお願いします。

○林野庁　木材産業課　永島　課長補佐

先ほどのウッドファーストさんの発言の中で、ベイマツの代替需要でスギの梁桁が少し増加したようなことをおっしゃっていましたが、分かる範囲で、その現場で使用し、反応はどうだったか等、また、今着工が少ない状況もあるとのことですが、今後、そういう需要等ニーズが定着しそうな予感がする等、そういう感触的なものでよいので、教えていただければと思います。

○ウッドファースト株式会社　伊藤　代表取締役

梁の動きは、5寸、6寸の梁の動きが非常にいいです。これはスパンを飛ばしたもの、尺上など大きいものになると、やはりベイマツの需要は変わらないですが、スパンを飛ばさないところやつなぎ等は、安価なスギでいいのではないかという考えが、徐々に定着してきていると思われます。

そのため、その細いところは、105角や5寸、6寸、その辺の寸法は、スギの梁を使おうというところです。

○川田　座長

それでは、次に進めさせていただきたいと思います。

まず、川上の状況について、現在の現地の状況、すなわち生産状況、さらに、樹種の造材の状況等、森林所有者の反応状況、こういった問題につきまして、素材生産業者の方に、あるいは流通業者の方にお願いしたいと思います。

原木流通及び素材生産を一括して話を進めていきたいと思います。

まず株式会社久万木材市場の営業部長であります片岡様より、原木の需給状況、あるいは今後の見通しにつきましてお願いいたします。

○株式会社久万木材市場　片岡　営業部長

昨日、私ども久万木材市場の初市でしたが、出材状況はよくなく、年末ぐらいから継続しています。年末年始、今も雪が降っていますが、天候の状況が大きく影響しています。

また、個人の出荷、出材が、半年ほど減少しており、価格的な影響なのか、インボイスの影響なのか、少し分かりかねるところはありますが、出材がよくなるという可能性は、今のところ見えていない状況です。

販売は、11月ぐらいからスギ価格が少しずつ上昇し、柱適材も1万円前後となっていたが、何とか1万3,000円近くまで戻ってきています。ヒノキに関しては、皆さんおっしゃっているように高い水

準で、今年1年間継続したのではないかと思っています。

○川田　座長

次に協同組合高知県木材市場連盟の尾崎様よりお願いします。

○協同組合高知県木材市場連盟　尾崎　代表理事

入荷状況は、昨年は割と多く、順調に入荷していました。ただ、入荷が多い割に、木材の動きはあまりよくなく、価格面では少し不利な状況が続いていた。今年に入り、高知県はそこまで降雪がなく、天候は安定しているが、年末年始で休みが入り、材は少なめという印象です。今年1年、先行きはどうなるか、まだ想像がつきづらいですが、今のところ、木材の動きがプラスになる要素は出てきていないので、今回の震災の復興等始まったときに、その動きの影響を受けるか等、現在、皆さんが気にしている部分があります。

○川田　座長

木材需給を巡り、特に原木使用については、大きな変化がない状況かと思います。先ほど、久万木材市場さんの場合は、12月頃よりヒノキの価格、非常に良くなってきているという動きがあるとのことでした。

今回、先ほど会長からも挨拶の中で出ていましたが、今年に入り能登半島では激震に見舞われましたが、今後の木材の需給状況に、どのような影響が出ると思われますか、尾崎さんにお願いします。

○協同組合高知県木材市場連盟　尾崎　代表理事

結構難しい問題ではあると思いますが、東日本大震災時は、結構復旧等いろいろとできなく、あまり実感がなかったが、今回は、結構家屋倒壊等、あと火災の話も聞きます。

それで、復旧がどんどん進んでいけば、影響は出るとは思うが、ただ、それが、長期間永久的に出るかといったらそういうのはない。ピンポイントで、この時期に復興が始まり、材が動いた等、そういうレベルで落ち着くのではないと見ています。

○川田　座長

次に大木坑木有限会社宇和島出張所の二宮様にお願いします。

○大木坑木有限会社宇和島出張所　二宮　取締役所長

皆さんと同様で、天気もよく、安定した入荷が継続している。ヒノキについては、昨年11月、12月ぐらいから3m 柱口、4m 土台が、一段高強含みとなって、依然、年明けも好調に推移いる。スギについては、昨年来からの製品荷動きに反映して、動きも悪く、単価も相変わらず低調です。ヒノキについては、外材の代替で、国産材がよいと感じる。

今後の入荷は、降雪があると思うが、3月頃までは、例年どおりの出材の見込みをしている。価格の動向については、ヒノキは、今後、伐採量が増加すれば、価格は弱含みと予想している。スギについては、若干落ち着いてきているところもあり、あまり期待はできないが、現状のまま推移するよう

な見込みです。

○川田　座長

四国の場合、スギがかなり大きなウェートを占めているので、以前から話が出ているスギの大径材の元玉等原木の需給はどういう状況にあるのでしょうか。

○大木坑木有限会社宇和島出張所　二宮　取締役所長

当地域は、ヒノキが7割、スギが3割、他の市場と比べ、スギの絶対量が少ない。

量がないので、単価を出してくれない。30上は、そのとき、市売日毎に全然需要があったり、なかったりで、ここは乱高下が激しい。それで、なかなか、大径材を売りづらいところではある。

○川田　座長

このスギの場合、非常に成長が良く、高知県の場合も、やはり、元玉の大径材を販売、その合板に売れない場合は、燃材という状況になる。二宮さんには、以前にも話を聞いたかと思いますが、売れない材については、市場である程度買い取って、その市況状況において対応していくという話がありましたが、その辺の動きは、原木市場としてどうなのでしょうか

○大木坑木有限会社宇和島出張所　二宮　取締役所長

大径材に関しては、一時期よりは販売できている。反対に、18から28の等外材、黒芯・曲がり材の売れ行きが悪いので、仕切りの単価より安い時は、山方を支えるつもりで、私どもが買い支えさせていただいている。

○川田　座長

続きまして、素材生産の方に意見をいただきたいと思う。素材生産につきまして、業界の動きについて、高知県の素材生産業協同組合連合会の福吉専務理事さんから話をいただきたい。

○福吉　事務局長（高知県素材生産業協同組合連合会　専務理事）

当連合会では、民有林7割、国有林3割で素材生産業を行っており、今年度につきましては、出材はほぼ順調です。

しかし、昨年来ウッドショック後の木材価格の下落とコロナ禍による燃料や資材等の高騰により、生産業者は厳しい状況が続いております

また、担い手不足や林道整備の遅れ、2024年度運送問題等山積みしている状況です。

担い手対策としての外国人による技能研修制度の早期確立、幹線林道の早期整備等が重要となっています。

こうした課題もありますが、安定供給体制づくりとして、川下・川中のニーズに川上がどう答えられるのか、長級の対応ならば可能ですが、樹種の変更は現場対応が難しいのが現状あり、それぞれの立場で検討する必要があります

最後に、素材生産業者より最近よく聞かれるのが、伐採届等が必要となり、非常に時間と手間を要するとのことです。必要性はわかりますが、簡潔に手続きできるようご検討願いたい。

○川田　座長

続いて高知県素材生産業協同組合連合会代表理事の本山様よりお願いします。

○本山　会長（高知県素材生産業協同組合連合会　代表理事）

現在、現場では直小曲がり、そして曲がり、大曲がりというような分け方をしているが、なかなか曲がり材の価格が、採算が合わなくなってきている、直小曲がりまでは、製品として出荷しているが、曲がり以下については、現場で選定に時間をかけるよりも、全部をパルプに回し、大量生産するほうが、年間の売上げが上がってくるのではないか。そのような取組に変わってきている。無理をして曲がり材を出荷しても、パルプであれば8,500円で売却できるのが、市場では、これは不適当となったら、6,000円に値下がりするので、もうそういうところで時間をかけるよりは、思い切って、量で勝負をしようという取組が大分進んでいる状況です。

○川田　座長

最近、合板用材で受け入れられない原木の場合、運賃その他の諸経費等を考慮すると、むしろ燃材として出荷したほうが有利だという考え方があると聞いており、先ほどの本山さんからも発言がありました。

合板自体も、非常に在庫を抱えてきており、買入制限をする状況の中で、合板として需要が制約される場合、むしろ山ごと、バイオマスのほうに燃材として出荷したほうが有利ではないかという意見も、一部聞かれるところです。

次に、チップ専門で生産されているモリチップの森様に、チップ生産等の状況につきまして、製紙用チップの需給との関わりもあると思いますが、最近の状況、どういう状況でしょうか。お願いいたします。

○株式会社モリチップ　　森　代表取締役

アンケートにも回答しましたが、出材自体はかなり増加し在庫も増加しており、当社としては特に変更がなく、堅調に推移している状況です。

出荷量としては、発電用の燃料チップのほうが多いです。

○川田　座長

製紙用チップと燃料用チップとは、その単価的には差があるのですか。

○株式会社モリチップ　　森　代表取締役

いろいろな取引先があり、それぞれの条件によって単価は、結構ばらつきがあります。

○川田　座長

特に、一般用材の需給が低迷していく流れのなかで、燃材用の木質バイオマス、あるいはチップの需要は、安定しているのではないかと思いますが、原料は、どういう状況になっていくのですか、そのチップ用材・燃料用材はどういう生産の形になっていきますか。

○株式会社モリチップ　　森　代表取締役

入荷は、針葉樹が圧倒的に多いですが、先ほどの意見のように、山土場では以前のように細かい選別をせず、そのまま直接パルプとして送られてくるケースが、私も増加しているように思うし、入荷は増えていると感じています。

○川田　座長

先ほど本山さんが言われるような曲がり材等に限定されてくるわけですか。それとも、直材も含めて、大径材なんかも含まれているのでしょうか。

○株式会社モリチップ　　森　代表取締役

素材生産業者さん、それぞれの考え方だと思いますが、通常は経済的にも、当然、市場に出荷されていると思います。

○川田　座長

チップ生産との関わりで、製紙関係の丸住製紙の原材料部長の鈴木様より、製紙用原料の需給と国産材との関係等につきまして、状況を教えていただきたいです。

○丸住製紙株式会社　鈴木　原材料部長

我々が購入する木材チップは、国産材と外材の両方あります。外材につきましては、昨年来、チップ価格が高騰したことに加えて為替の影響もあります。国産材につきましては一定量を継続して購入ということを考えており、今後は国産材の有効利用をやっていきたいと思います。

しかし、バイオマスとの競合ということもあり、今後製紙用国産材チップの出荷量は限られてくると思います。

○川田　座長

先ほどもお聞きしましたが、木質バイオマスと製紙用チップとの値段には、かなり開きがあるのですか。

○丸住製紙株式会社　鈴木　原材料部長

バイオマスの場合は、製紙と比較すると、枝条や皮まで全部入っても構わないので、その辺りの違いは出てくると思います。

○川田　座長

国産材と外材チップは、どのくらいの比率で利用されているのですか。

○丸住製紙株式会社　鈴木　原材料部長

これまでは、外材を厚めに使用していたが、昨年来の外材の高騰もあり国産材の方も使用している。

○川田　座長

国産材へシフトしましたか。

○丸住製紙株式会社　鈴木　原材料部長

シフトも考えていますが、限られた材になるので、急速に増やすことはなく、ある一定量を徐々に使用していくと思います。

○川田　座長

最後に行政的な視点からの状況をお尋ねしたいと思います。

住宅関連資材の高騰等によっては、住宅建築の低迷や製品需要が低迷する中で、大型木質バイオマス発電等が一方では設立されるなど、注目される動きが見られる。

四国でも、徳島県等で大型木質バイオマス発電、王子グリーンエナジー、津田バイオマス発電等の新たな動きが出てきており、こういったものが、国産材の需給に与える影響等、かなりあるのではないかと思っている。既存のバイオマス発電所等に対する影響も、もちろん当然であります。

徳島県の状況につきまして教えいただきたいと思います。

○徳島県スマート林業課木材需要・木育担当　小笠原　係長

昨年、稼働したバイオマス発電所についてですが、株式会社レノバさんが開業し、8月に稼働を開始しました。新聞報道の掲載を見た方もいると思うが、12 月から本格的に営業稼働を開始したと聞いている。

概要としては、年間33万トンの燃料を活用することとしており、内訳としては、輸入のペレットとPKSで、現在は、ペレットが1で、PKSが2ぐらいの割合で使用していると聞いている。

それなので、国産材への影響は、今のところは少ないと思われるが、昨年、工場を見学した際に、担当者が為替の状況もあり、外国の燃料がかなり高騰しており、一部を国産材にシフトしたいと話をしていた。当時、私はバイオマスの担当もしており、国内の状況を伝言し、あまり転換を進めないようにとお願いしたところです。

今のところは、国産材の利用を進められている倉紡さんのバイオマス発電所以外の大手につきましては、外材等にしているので、特段、影響はないと思います。

県としましても、バイオマスに限らず、A材から D 材まで、安定的に木材を供給するように増産を核にした林業プロジェクトを進めており、現在、5期目で、知事も代わり、次の6期目をどうするかという話をしていますが、やはり、増産を核にした取組を進めていきますので、安定的に県産材が供給できるように努めていきたいと考えています。

○川田　座長

特に、徳島県は、そういう川下領域の加工分野において、この木質バイオマス発電、あるいは、プレカットも新たな工場ができるというような、非常に活発な動きをしてきている。こういったものが、徳島県産材の需要、国産材の需要にどのように影響するか見守って行きたいと思います。 続きまして、高知県より皆伐跡地の再造林への取組等について、これから皆伐化の方向へと進んでいく中で、どう再造林を進めていくのか、取組につきまして、お尋ねしたいと思います。

○高知県林業振興・環境部木材増産推進課　大野　課長

本県につきましては、昨年に再造林推進プランを掲げ、令和9年度に再造林率70％を目指し進めているところです。再造林については、所有者負担が大きく4割程度の再造林率に留まっていますが、これを引き上げていくとなると、所有者の負担の軽減、あるいは、皆伐時の利益のところを増やしていくことが、大事になってくるところです。

これまで、森の工場という集約化を進めている団地づくりを進めてきましたが、取り組み始めて、20年ぐらい経っており、そうしたところの資源が充実している。例えば、その森の工場の作業道などのインフラを使用し、皆伐を進めたり、植栽をする等、低コストにできるのではないかと考えられるので進めていきたい。

原木の生産につきましては、少し話が違うが、ヒノキの価格は若干上昇している。まだ、県内の事業者は、先ほどの話のように、なかなかスギからヒノキへの転換は難しいところです。ヒノキの価格そのものが、コロナ前よりかなり上にいるということもあり、徐々にヒノキの出材が増加してくると考えているところです。

○川田　座長

高知県の場合は、森の工場という仕組みの中で、集約的林業の展開がみられるが、そういった仕組み全体との関わりの中で、再造林を進めていくことによって、コストの低減なり、効率化を図っていこうという取組をしていると思います。

続きまして、愛媛県で製品開発、製材開発等のいわゆる消費市場への開発への取組等が、何か注目される取組されているようでしたら、それについてお願いいます。

○愛媛県農林水産部林業政策課　薬師寺　課長

愛媛県の特徴はヒノキ材が多いことと、CLTの供給ができることですので、現在、特に注目されているのは、CLTの生産量が、先ほどの話のように大阪万博関連の施設で使用しているので、今年は堅調に生産量が伸びている状況です。また、おそらく令和5年から6年にかけては、CLTについては、この傾向は続くのではないか思います。

○川田　座長

県として、何か組織的にCLTの話以外にも、いろいろな消費市場への働きかけといいますか、そういった行政的な取組等はされていますでしょうか。

○愛媛県農林水産部林業政策課　薬師寺　課長

県内の主な製材や流通の業界の方と愛媛県産材製品市場開拓協議会をつくっており、協議会と県の職員は、頻繁に国内、海外へいろいろな出展があれば、その展示会等に出展し、個別の営業活動、海外や国内の有力企業等に働きかけを行っている。

○川田　座長

業界が連携しながら、消費者への組織的な開拓を図っていらっしゃるわけですが、例えば、成功した事例が何かありますでしょうか。

○愛媛県農林水産部林業政策課　薬師寺　課長

韓国ではヒノキが好まれるとよく言われおり、これまでに愛媛県材を使用し、県内でプレカットした木造の軸組で個人の住宅が、既に3棟建設されています。日本風の2階建て軸組の住宅です。

しかし近年、コロナで取組がなかなかできなかったところがありますが、昨年からコロナの5類移行等があり、渡航も自由になってきており、令和6年度は、特にアジア圏でヒノキが好まれるところに取組を強化していきたいと考えています。

○川田　座長

円安ということで、海外への輸出の問題も、また見直されてくることもありますし、県内、国内需要が低迷する中で、輸出という問題も、やはり真剣に考えざるを得ないという状況になってきていると思います。まだ、それほど大きな実績が出ているわけではありませんが、そういった一つの取組が、より広く、段々と波及されていくことにより、体制としてなっていく可能性は期待できるのではないかと思います。

最後に、私から若干の整理をし、終わらせていただきたいと思います。

本日は、皆様方から多様な御意見をいただき、ありがとうございました。我が国の森林資源というのは、成熟期を迎えまして、資源的には、供給の増大が見込まれますが、そのための基盤整備をはじめ、労働力確保など、国産材の供給体制の確立はもとより、木材需要の価格がとりわけ重要かと考えております。木材需要の柱である住宅建築は、低迷傾向にありまして、国産材需要の新たな開発が求められつつあると思います。為替の影響や木材需給に関わる世界各地の動向、国内の住宅需要動向の影響が、大変不透明な中で、国産材活用のチャンスを広げるためには、今後の需給見通しやそれらを踏まえた先進的な取組について参考となる情報を活用することが、非常に重要であろうかと思います。情報共有の場として、この需給情報連絡協議会を用いた機会を大いに活用していただくためにも、引き続き、皆様方の御協力のもと、議論を進めていけたらと存じております。

それでは、出席者の皆様方の協力に感謝申し上げまして、進行司会をお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○司会　福吉　事務局長（高知県素材生産業協同組合連合会　専務理事）

座長、どうもありがとうございました。

本日の議事概要につきましては、早急にとりまとめを行い、皆様に確認をいただいた上で、林野庁のウェブサイトで公表させていただきます。

また、今年度の四国地区の協議会につきましては、今回で終了となりますが、来年度も開催予定ですので、詳細が決まり次第、改めてご連絡させていただきます。引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、長時間にわたりご参加をいただき、誠にありがとうございました。

（以上）